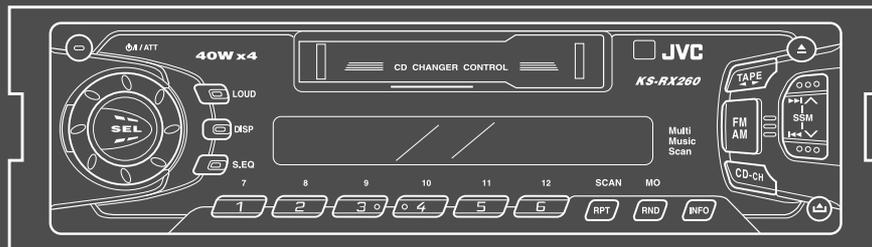


# 取扱説明書

# JVC

# KS-RX260

## カセットレシーバー



— お買い上げありがとうございます —

**!** ご使用前に

この「取扱説明書」と「取付説明書」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。  
そのあと保証書と一緒に大切に保管し、必要なときにお読みください。

# 目次

- 主な特長……………2
- 安全上のご注意……………3～7
- 正しくお使いいただくために……………8～9
- 各部の名前と働き……………10～13
- リモコン(RM-RK41:別売り)の使いかた……………14～15
- 時計の合わせかた……………16
- 音量・音質の調節……………17～19
- ラジオを聞く……………20～22
- テープを聞く……………23～26
- CDチェンジャーのCDを聞く……………27～29
- 他の機器の音を聞く……………30～31
- レベルメーターの表示切換え……………31
- コントロールパネルの着脱……………32
- 故障かな?と思う前に……………33
- 保証書とアフターサービス……………34
- 主な仕様……………35
- お手入れ……………裏表紙

# 主な特長

- **ダイレクトソース(音源)切換**
  - ・ ラジオやテープ、CDチェンジャー内のCDなどの演奏がワンタッチでスタート(電源を入れることも可能)
- **最大出力40W×4chハイパワーアンプ内蔵**
- **フルロジックオートリバーズメカニズム**
  - ・ 前後9曲のミュージックスキャン
  - ・ ブランクスキップ機能
- **SSM搭載チューナー**FM/AMステレオ
  - ・ HS-II(高感度)チューナー
  - ・ FM放送に限りSSMによる放送局のメモリーが可能
  - ・ 24局プリセット(FM⇒6×2局、AM⇒6×2局)
  - ・ 交通情報が聞けるインフォメーションINFOボタン
- **チェンジャーコントロール機能**
  - ・ 12枚CDチェンジャーに対応
- **S.EQ LINK(シンプルイコライザーリンク)機能**
  - ・ ビート、ソフト、およびポップサウンドの音質をソース(音源)ごとにメモリー
- **プリアウト1系統(RCAピン)**
- **リモコン(RM-RK41:別売り)対応**

# 安全上のご注意

—はじめにお読みください—

## 絵表示について

この取扱説明書には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、人への危害や財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

### ●絵表示の説明

注意をうながす記号



一般的注意



指をはさまれないよう注意

行為を禁止する記号



禁止



分解禁止



水ぬれ禁止



- この表示の注意文を無視して、誤った取扱いをすると、傷害を負ったり物的損害が想定される内容を示しています。

行為を指示する記号



一般的指示

# 安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

## 警告

■本機はDC12V マイナスアース車専用です。



・大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災・故障の原因となります。

■配線作業中は、バッテリーの<sup>マイナス</sup>端子のコードを外してください。



・ショート事故による感電やけが、火災の原因となります。

■本機を、前方の視界を妨げる場所やステアリング、シフトレバー、ブレーキペダル等の運転操作を妨げる場所など運転に支障をきたす場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けしないでください。



・交通事故やけがの原因となります。

■車体に穴を開けて取り付ける場合は、パイプ類、タンク、電気配線などの位置を確認の上、これらと干渉や接触することがないように注意して行ってください。



・交通事故や火災の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用して本機を取り付ける場合は、ステアリング、ブレーキ系統、またはタンクなどの保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・これらを使用しますと制動不能や発火の原因となります。

■車体のボルトやナットを使用してアース線を接続するときは、ステアリングやブレーキ系統等の保安部品のビスは絶対に使用しないでください。



・事故の原因となります。



# 警告

- コード類は、取付説明書または取扱説明書の指示に従い、運転操作の妨げとならないよう、まとめておくなどしてください。



- ・ステアリングやシフトレバー、ブレーキペダルなどに巻き付くと事故の原因となります。

- 電源リード線の被覆を切って、他の機器の電源コードを接続することは絶対にお止めください。



- ・リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

- 本機を分解したり、改造しないでください。



分解禁止

- ・事故・火災・感電・故障の原因となります。

- 自動車を運転中に音量調節等の操作をしないでください。



- ・このような操作は、必ず安全な場所に車を停車させてから行ってください。

- 音が出ないなどの故障状態で使用しないでください。



- ・事故・火災・感電の原因となります。

- ヒューズを交換するときは、必ず規定容量(アンペア数)のヒューズをご使用ください。



- ・規定容量以上のヒューズを使用すると、火災・故障の原因となります。

- 万一、異物が入った・水がかかった・煙が出る・変な匂いがするなど異常が起きましたら、直ちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。



- ・そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

# 安全上のご注意(つづき) —はじめにお読みください—

## ⚠ 注意

### ■本機の取り付け・配線には、専門技術と経験が必要です。



・安全のため必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

### ■必ず付属の部品を指定通り使用してください。



・指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして事故やけが・故障の原因となることがあります。

### ■雨が吹き込むところなど、水のかかるところや湿気やほこりの多いところへの取り付けは避けてください。



・本機に水や湿気、ほこりが混入しますと発煙や発火の原因となることがあります。

### ■振動の多いところなど、しっかり固定できないところへの取り付けは避けてください。



・外れて事故やけがの原因となることがあります。

### ■本機の通風孔や放熱板をふさがないでください。



・通風孔や放熱板をふさぐと内部に熱がこもり、火災・故障の原因となることがあります。

### ■本機を不安定なところに取り付けしないでください。



・正しい設置を行わないと、事故や故障の原因となることがあります。

### ■正規の接続を行わないと、火災や事故の原因となることがあります。



・接続が終わったら車のブレーキランプ、ホーンなどが正常に動作することを確認してください。

### ■車体やねじ部分、シートレール等の可動部に配線をはさみ込まないように注意してください。



・断線やショートにより、事故・感電・火災・故障の原因となることがあります。

## ⚠ 注意

■ 運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度で  
ご使用ください。



・ 車外の音が聞こえない状態で運転すると、事故の原因となることがあります。

■ 本機を車載用として以外は使用しないでください。



・ 感電やけがの原因となることがあります。

■ カセットテープ挿入口に異物を入れないでください。



・ 火災や感電・故障の原因となることがあります。

■ カセットテープ挿入口に手や指を入れないで  
ください。



・ けがの原因となることがあります。

指をはさまれないよう注意

# 正しくお使いいただくために

● 本機はDC12V、マイナスアース車専用です。大型トラックなどの24V車には使用できません。

● スピーカーはアンプの出力(1チャンネル当たり40W)に対し、入力に十分余裕のあるもの、インピーダンス4Ω～8Ωのものをお使いください。

● 次のような場所は避けて取り付けてください。

- ・ 直射日光の当たる場所、ヒーターの熱風を直接受ける所など、温度が極端に高くなる場所
- ・ 雨が吹き込む所や水がかかったり、湿気の多い所
- ・ ほこりの多い所

● 安全運転のために…

- ・ 運転中は車外の音が聞こえる程度の音量に調節してお楽しみください。また操作は、必ず安全な場所に停車させてから行ってください。
- ・ ステレオの音量は、あなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

● 車内の温度は…

真夏の炎天下や冬期低温下で長時間駐車した後に、テープやCDを聞くときは、車内が常温に近くなるまでお待ちください。  
(使用温度範囲：0℃～+40℃)

● バッテリーの過放電を防ぐため、エンジン停止中やアイドリング中は、大きな音量で長時間使用しないでください。

● 海外での使用は…

本機は日本国内用です。海外での使用はできません。

● スピーカーコードの接続について

本機はBTL\*回路方式を採用していますので、スピーカーの接続は必ずこの取付説明書の通りにしてください。

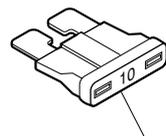
既設のスピーカーコードを利用するとき、左右のスピーカーコードの<sup>マイナス</sup>側が車の金属部に接続されていたり、<sup>プラス</sup>側同士が接続されていると故障の原因となります。

バランスド トランスフォーマーレス  
\*BTL：Balanced Transformerlessの略

2組でパワーアンプを互いに逆相で駆動し、比較的低い電圧で高出力が得られる回路方式のことです。

● ヒューズの交換について

本機のヒューズは10A(アンペア)です。交換してもすぐ切れるときは、お買い上げの販売店にご相談ください。また、10Aを超えるヒューズは絶対に使用しないでください。



ヒューズ(10A)

## カセットテープの取り扱いかた

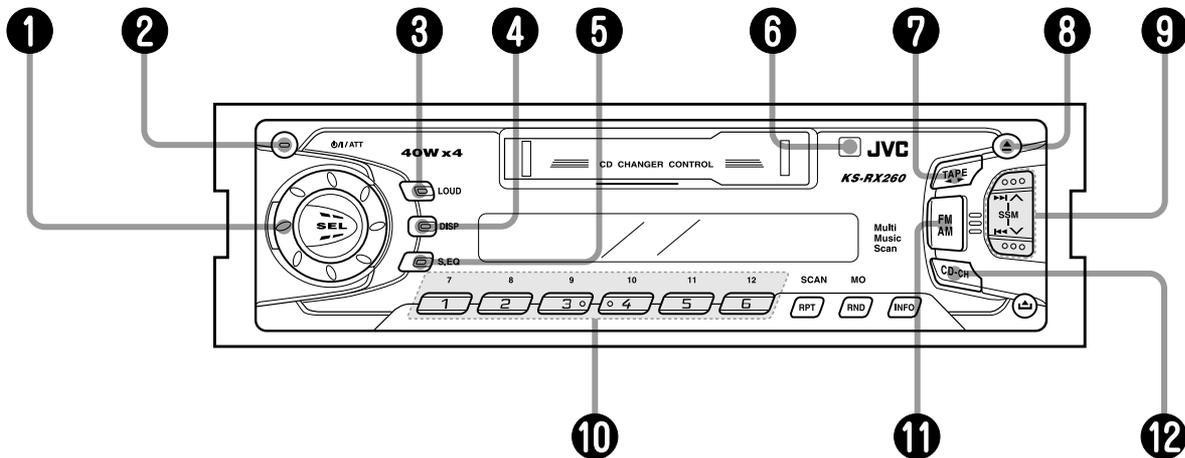
- ・テープにたるみがありますと、巻き込んだり、故障の原因になります。使用する前に右図のようにしてたるみを取り除いてください。
- ・テープを引きだしたり、テープ面にふれないでください。
- ・C-120などの長時間テープは薄いため、こきざみな走行や停止などをくり返すと、テープが機械の内部に巻き込まれることがありますのでご注意ください。



## カセットテープの保管

- ・カセットテープはケースなどに納め、次のような場所は避けて保管してください。
- ・直射日光の当たる所
- ・ホコリや湿気の多い所
- ・スピーカーの上など磁気の影響を受けやすい所

# 各部の名前と働き



## 1 回転ボリューム

ボリュームレベルが調節できます。

→17ページ参照

## 2 電源/ATTボタン

アッテネーター

電源の「入」↔「切」や音量を一時的に下げることができます。

→10ページ参照

## 3 LOUDボタン

ラウドネス

小音量時の低音・高音を増強するとき使います。

→10ページ参照

## 4 DISPボタン

ディスプレイ

表示窓の表示を変えるとき使います。

押すごとに「ソース(音源)表示↔時刻表示」が選べます。

## 5 S.EQボタン

シフトイコライザー

聞きたい音楽に合わせて音質を選びます。→18ページ参照

## 6 リモコン受光部

別売りのリモコン(RM-RK41)の信号をここで受信します。

→14ページ参照

## 7 TAPE ◀▶ ボタン

ソース(音源)を「TAPE」にするとき使います。再生中に押すと、テープの聞きたい面を選ぶことができます。電源を入れることもできます。→20ページ参照

## 8 ▲(テープ取出し)ボタン

テープを取り出すとき使います。→20ページ参照  
TAPE ◀▶ ボタンを押したまま、このボタンを押すとテープの盗難防止ができます。→20ページ参照

## 9 ●「ラジオ」のとき：選局ボタン(∨、∧)/SSM ボタン

放送局を選局するとき使います。→20ページ参照  
∨と∧ボタンの中央を2秒以上押すと、電波状態の良いFM放送の放送局を、自動的にプリセットボタンにメモリーすることができます(SSM)。→21ページ参照

### ●「テープ」のとき：|◀◀、▶▶|ボタン

1秒以上押すと早送りや巻戻し、「ポン・ポン」と押すと、ミュージックスキャン(曲の頭出し)ができます。→24、25ページ参照

### ●「CDチェンジャー」のとき：|◀◀、▶▶|ボタン

曲の頭出しや早送り、早戻しに使います。→20ページ参照

## 10 ~ ボタン

### ●「ラジオ」のとき：プリセットボタン

放送局をメモリー(記憶)したり、メモリーした放送局を聞くとき使います。FM(FM1×6局、FM2×6局)、AM(AM1×6局、AM2×6局)の24局がメモリーできます。→22ページ参照

### ●「CDチェンジャー」のとき：CDダイレクト 選択ボタン

CDチェンジャー内の聞きたいCDを直接選ぶとき使います。→20ページ参照

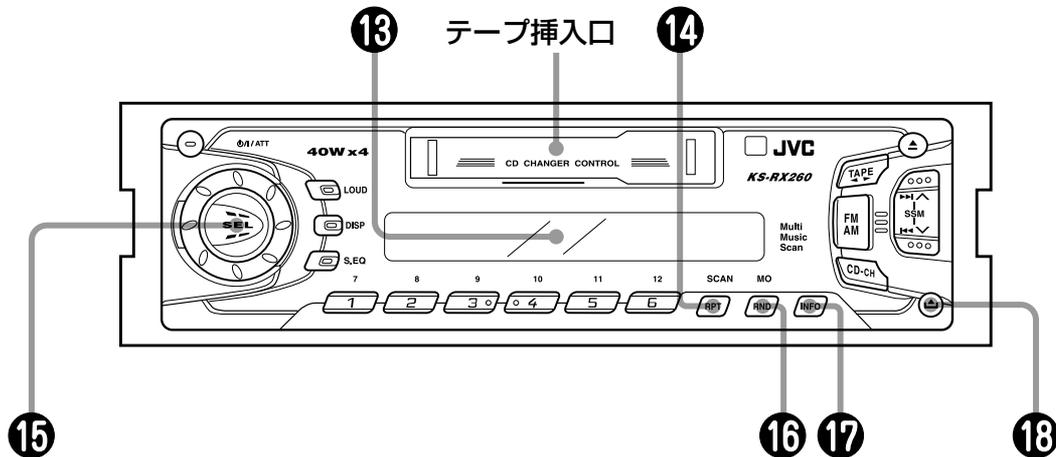
## 11 FMとAMボタン

ソース(音源)を「ラジオ」にしたり、FMとAMの聞きたいバンドを選ぶとき使います。→20ページ参照  
電源を入れることもできます。  
押すごとにFM1→FM2→AM1→AM2→FM1…と順に変わります。

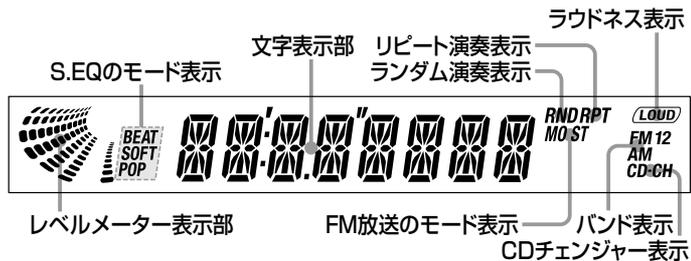
## 12 CD-CH ボタン

ソース(音源)を「CDチェンジャー」にするとき使います。電源を入れることもできます。→27ページ参照  
他の機器の音を聞くとときも使います。→30ページ参照

# 各部の名前と働き(つづき)



## 13 表示窓



・演奏時間やバンド表示や周波数表示などの部分を文字表示部といいます。

## 14 ●「ラジオ」のとき：SCANボタン

スキャン  
スキャン選局ができます。→21ページ参照

## ●「テープ」のとき：RPTボタン

リピート  
再生中の曲をくり返して聞くことができます。  
→26ページ参照

## ●「CDチェンジャー」のとき：RPTボタン

リピート  
演奏中の曲をくり返して聞くことができます(リピート演奏)。→29ページ参照

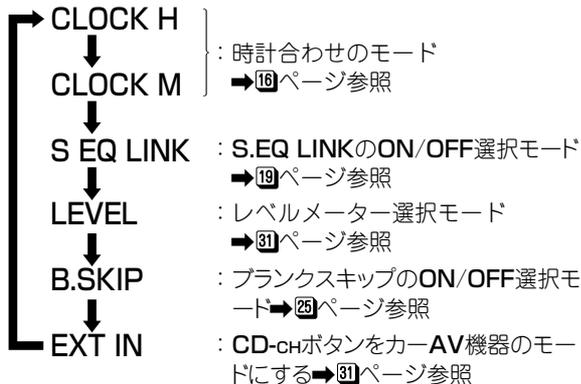
## 15 セレクト SELボタン

音量・音質調節のモードが選べます。押しごとに



と変わります。→17ページ参照

- 2秒以上押しすと、お買い上げ時は「CLOCK H」のモードになり時計合わせ(「時」の調節)ができます。このとき▶▶I(またはI◀◀)ボタンを押すと、下記のモードが選べます。例は▶▶Iボタンを押したときです。I◀◀ボタンでは逆に変わります。次から選んだモードが優先的に表示されます。



## 16 ●「ラジオ」のとき：モノラル MOボタン

FMステレオ放送が雑音で聞きにくいとき使います。  
 →21ページ参照

## ●「CDチェンジャー」のとき：ランダム RNDボタン

CDに収録されている順番に関係なくランダム(無作為)に聞くことができます(ランダム演奏)。→29ページ参照

## 17 インフォメーション INFOボタン

道路交通情報(AM1, 620kHz)を聞くとき使います。  
 →24ページ参照

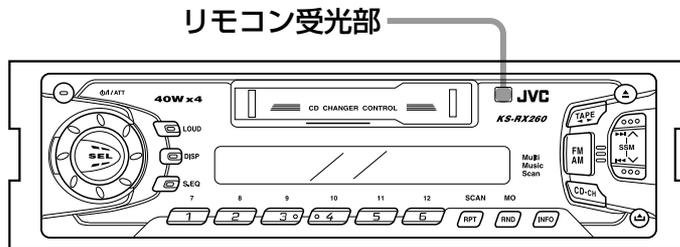
## 18 コントロールパネル取り出しボタン(▲)

コントロールパネルを外すとき押します。→32ページ参照

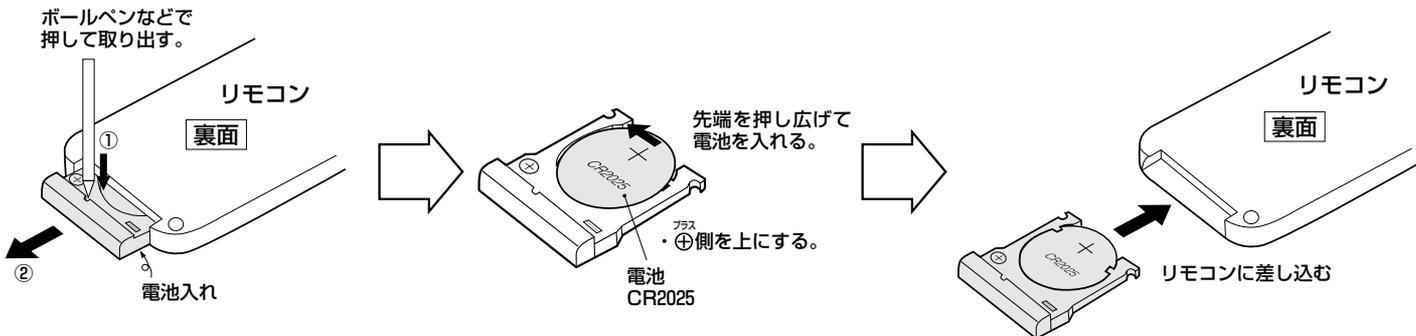
# リモコン(RM-RK41 : 別売り)の使いかた

## リモコンの使いかた

- リモコン受光部に正しく向けてボタンを押します。
- 操作範囲は受光部正面より約±30°の範囲ですが、斜めから操作すると受信しにくくなります。
- 受光部に直射日光などの強い光が当たらないようにしてください。また受光部の前に障害物を置かないでください。(動作しないことがあります)
- リモコンに付属の電池は動作確認用です。早めに新しい電池と交換してください。



## 電池の入れかた



## ● 電池の交換時期(目安)は…

リモコン操作のできる距離が短くなったり、動作が不安定になってきたときは、電池が消耗しています。新しい電池と交換してください。

使用済みの電池は、廃棄しないでリサイクル協力店にお持ちください。

## 各部の名前と働き

### 電源/ATTボタン

1秒以上押しと電源の「入」↔「切」ができます。「ボン」と押しと音量を一時的に下げることができます。

### DISC+/BANDボタン

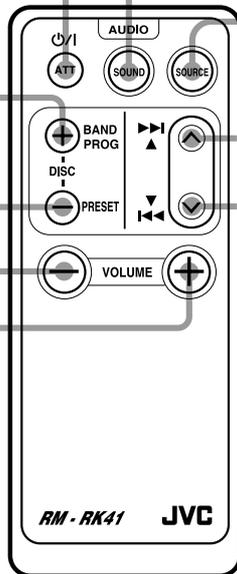
- ・「ラジオ」のとき：バンドが選べます。
- ・「CDチェンジャー」のとき：CDが選べます。
- ・「テープ」のとき：テープ走行方向(順方向↔逆方向)が選べます。

### DISC-/PRESETボタン

- ・「ラジオ」のとき：プリセットしてある放送局(1ch～6ch)の選局ができます(プリセット選局)。
- ・「CDチェンジャー」のとき：CDが選べます。

### VOLUME+、-(音量)ボタン

- 音量の調節ができます。
- ・ +：音量が上がります。
  - ・ -：音量が下がります。



### SOUNDボタン(S.EQボタンと共通)

聞きたい音楽に合わせて音質を選びます。本体のS.EQボタンと同じ働きをします。

### SOURCEボタン

ソース(音源)を選ぶとき使います。押しごとに

ラジオ → テープ → CDチェンジャー  
(LINE IN)

と変わります。ただし本体にテープが入っていないか、CDチェンジャーが接続されていないときはラジオのみになります。

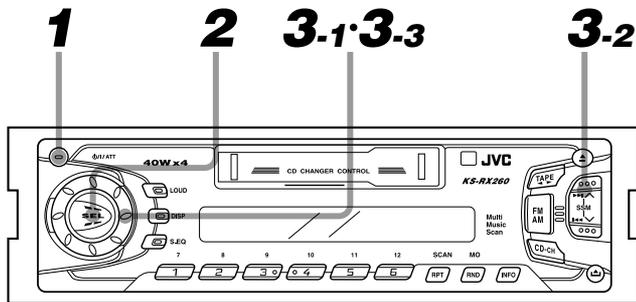
### ▲、▼ボタン

- ・「ラジオ」のとき：選局(自動選局)ができます。
- ・「CDチェンジャー」のとき  
：曲の頭出しや早送り、早戻しができます。
- ・「テープ」のとき：ミュージックスキャンや曲の早送り・巻戻しができます。

(▲と▼の機能はありません)

# 時計の合わせかた

— 本機に内蔵の時計を現在時刻に合わせておきます。 —



## 1 電源/ATTボタンを押して電源を入れる (HELLOが表示されます)



・電源を切るときは、  
1秒以上押します。  
(SEE YOU表示  
のあと電源オフ  
になります)

・「ボン」と押したときは、<sup>アッテネーター</sup>  
ATTになり音量が一時的に下げられ、  
ATT表示が点滅します。  
もう一度押しと元の音量に戻り  
ます

## 2 SELボタンを2秒以上押し 「CLOCK H」を表示させる



→ **CLOCK H**

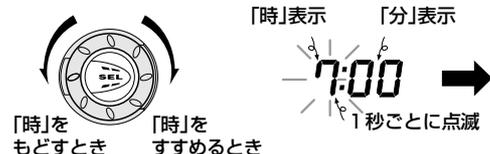
・2秒以上押し。

・「CLOCK H」以外の表示が出たときは、▶▶▶(または  
◀◀◀)ボタンを「ボン・ボン」と押しして選びます。

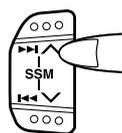
## 3 回転ボリュームと▶▶▶ボタンで現在時刻に合わせる (時刻表示点滅中に操作します)

例：7時30分に合わせるとき(12時間表示方式です)

### 3-1 「時」を合わせる



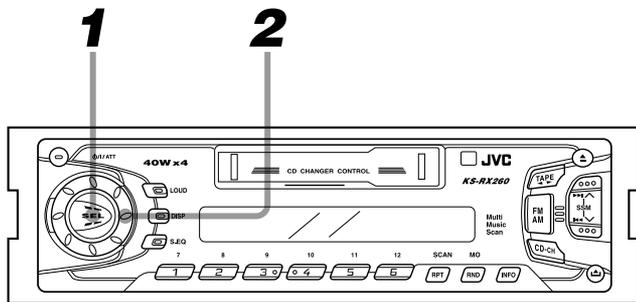
### 3-2 「CLOCK M」を 表示させる



### 3-3 「分」を合わせる

- ・時刻合わせが終わったあと、15秒で自動的に元のソース(音源)表示に戻ります。すぐに戻りたいときはSELボタンを「ボン」と押します。
- ・使用中に時刻表示にしたいときは、DISPボタンを押します。
- ・時刻を合わせ直すときも2~3の操作をします。
- ・バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れると、設定した時刻は取り消されます。もう一度時刻合わせをしてください。

# 音量・音質の調節



## 〈お知らせ〉

- ・フェーダー調節は4スピーカー接続のときのみ調節してください。

## 1 SELボタンを押して調節したいモードを選ぶ



・「ボン」と押す

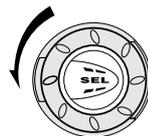
・「ボン・ボン」と押すごとに表示窓に

BAS → TRE → FAD → BAL  
 ↙ ↘  
 VOL

と変わります。ただしVOL(音量)調節のみの場合、この操作は、必要ありません。直接回転ボリュームで調節できます。

## 2 回転ボリュームを回して音量・音質を調節する

・調節したレベルが表示窓のメーター部に表示されます。



VOL (音量)	音量が下がる	音量が上がる
BAS (低音)	低音が減衰する	低音が強調される
TRE (高音)	高音が減衰する	高音が強調される
FAD (フェーダー)	フロント出力が下がる	リア出力が下がる
BAL (バランス)	右チャンネルの音量が下がる	左チャンネルの音量が下がる

# 音量・音質の調節(つづき)

## ● 音量・音質の初期設定状態と調節範囲

	初期設定	調節範囲
VOL(音量)	15	00~50
BAS(低音)	00(フラット)	-06 ~ +06
TRE(高音)	00(フラット)	-06 ~ +06
FAD(フェーダー)	00(センター)	リア R06 ~ フォント F06
BAL(バランス)	00(センター)	左 L06 ~ ライト R06

・調節が終わってから5秒後に、表示窓は前のソース(音源)表示に戻ります。

## ● ラウドネスコントロールについて



LOUDネスを「オン」に設定すると、表示窓に **LOUD** が表示されます。小音量時の低音、高音が増強され聞きやすくなります。

・押すごとに「オン↔オフ」になります。

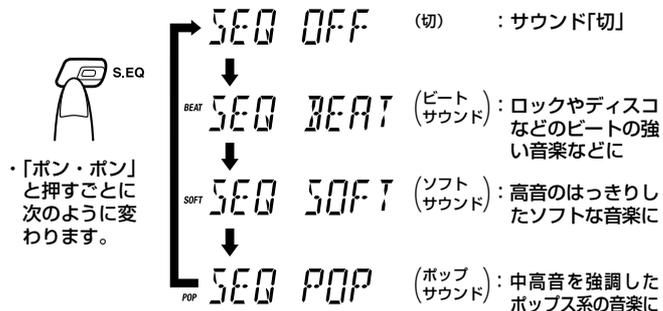
LOUDネス「オン」

LOUDネス「オフ」(お買い上げ時の状態)

**LOUD ON** ↔ **LOUD OFF**

## S.EQボタンの使いかた

S.EQ(シンプルイコライザー)を使うと、お聞きになる音楽に合わせて音質が自由に選べます。



## 〈お知らせ〉

### ● リモコンで操作するとき



SOUNDボタンを使います。

### ● S.EQ LINK機能について

S.EQ LINKとは、ビート、ソフトおよびポップサウンドの音質を各ソース(音源)ごとにメモリーしておける機能のことです。お買い上げ時は「LINK OFF」になっておりますので、S.EQ LINKを「LINK ON」に設定してください(➡19ページ参照)。その後、好みの音質に調節しメモリーしてください。ソース(音源)を変えるごとに、違った雰囲気サウンドが楽しめます。

## S.EQ LINK機能を「ON」にする

各ソース(音源)ごとにお好みの音質にしたいときは、S.EQ LINKを「ON」にします。

### 1 SELボタンを2秒以上押す

### 2 ▶▶I(またはI◀◀)ボタンを「ポン・ポン」と押し て「S EQ LINK」を選ぶ

### 3 回転ボリュームを右方向に回して「LINK ON」 にする



・左方向に回すと  
「LINK OFF」に  
戻せます。

・ソース(音源)ごとにお好みのサウンドに  
設定できます。  
(お買い上げ時は「LINK OFF」です)

### 4 SELボタンを押す

・元のソース(音源)表示に戻ります。

## S.EQのメモリー内容を変える

ビート、ソフトおよびポップサウンドは、お好みの音質に調節しメモリーできます。ラウドネスの「オン/オフ」も一緒にメモリーできます。

### 1 ソース(音源)を選ぶ

・ラジオ、テープまたはCDチェンジャーなどから選びます。  
ただし、「LINK OFF」のときは、必要ありません。

### 2 S.EQボタンを押してサウンドを選ぶ

・BEAT、POPまたはSOFTのいずれかを選びます。

### 3 SELボタンを押して「BAS」または「TRE」を選ぶ

・調節したレベルが表示窓に表示されます。

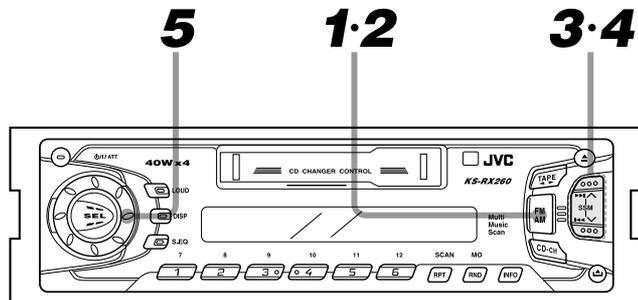
### 4 回転ボリュームで音質(BASまたはTRE)を調 節する

・ソース(音源)に合わせたサウンドが自動でメモリーされます。  
・ラウドネスを「オン/オフ」するとき、LOUDボタンを使います。

# ラジオを聞く

— 番号順に操作します。 —

**マニュアル選局** ……電波の弱い放送局を受信したり、聞きたい放送局の周波数が分かっているときなどに使います。



## ● マニュアル選局のモードは…

選局の操作から 5 秒後に、マニュアル選局のモードは自動的に解除されます。シーク選局(➡22ページ参照)のモードになります。

## 1 FMまたはAMボタンでソース(音源)を「ラジオ」にする➡電源が入ります



・電源が入ると自動的に前の放送局を受信できます。

(FM放送の場合 FM1またはFM2が表示されます)



・表示窓にバンドと周波数が表示されます。お買い上げ時は、FM1のあと76.0が表示されます。

## 2 FM/AMボタンでバンドを選ぶ



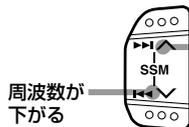
・押すごとに FM1➡FM2  
↑  
AM2↔AM1  
↓  
と変わります。  
・AM放送はモノラル受信です。

## 3 選局ボタン(∧または∨)を1秒以上押し続けてマニュアル選局のモードにする



・選局ボタン(∧または∨)を1秒以上押し続けて表示窓に「SEL」を点滅させます。

## 4 選局ボタン(∧または∨)で放送局に合わせる



周波数が下がる

周波数が上がる

・1回押すとFMは0.1MHz、AMは9kHzずつ移動し、押し続けると連続して変わります。

## 5 回転ボリュームで音量を調節する



## SSM(ストロングステーションメモリー)の使いかた

チューナーが自動的に電波の強いFM放送の放送局を、周波数の低い順に6局までメモリーしてくれます。AM放送はできません。旅行先などで放送局を探すときに便利です。

### ●操作例：FM1にメモリーするとき

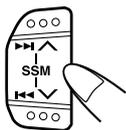
#### 1 FM/AMボタンでバンドを選ぶ(FM1にする)



FM1

(選んだバンドごとにメモリーできます)

#### 2 選局ボタンの△と▽の中央を2秒以上押す



--- 55M ---

中央を2秒以上押す。

・チューナーが放送局を探し、自動的に電波の強い放送局を、周波数の低い順に、プリセットボタンの①～⑥にメモリーしていきます。(前のメモリー内容は取り消されます)

#### 3 放送局が6局メモリーされるとプリセット1の表示になります

・プリセットボタン(①～⑥)を押して聞きたい放送局を選びます。(放送局が6局より少ないときは、前のメモリー内容が残ります)

## モノラルMOボタンの使いかた



FMステレオ放送受信時に電波状態が悪くて雑音が多いとき、このボタンで切換えます。表示窓に「MONO」が表示されモノラル受信モードになり、聞きやすくなります。「MO」が表示され続けます。電波状態が良好になったら「ST」表示に戻してお使いください。

## スキャン選局



聞きたい放送局を探すとき使います。SCANボタンを押すと、自動的に周波数が高い方に移動しながら放送局を探します。放送を受信するごとに周波数が点滅し、約5秒間モニターできます。聞きたい放送局のところでもう一度SCANボタンを押すと、その放送局を継続して聞くことができます。

## アンテナリモートについて

電動アンテナ装備車およびアンテナプースター装備車の場合は、**オートアンテナ**コードを車両側の対応する端子(オートアンテナ)に接続してください。ソース(音源)を「ラジオ」にすると自動的にアンテナ(プースター)側に電源が供給されます。「CDチェンジャー」や「テープ」などにソース(音源)を切換えると、自動的にアンテナ側への電源が切れます。

(**オートアンテナ**の最大コントロール電流は250mAです)

# ラジオを聞く(つづき) — 番号順に操作します。 —

## プリセット選局

本機は、周波数を記憶しておくメモリー回路が内蔵されていますので、いったんメモリーしておけばあとはプリセットボタンを押すだけで正確な放送局の呼び出しができます。

- 操作例：FM放送の81.3MHzにある局をプリセットボタンにメモリーするには…

**1** FMボタンで「FM1」を選ぶ → **FM1**

**2** 選局ボタン(▲または▼)で希望の放送局に合わせる

**3** プリセットボタンの「」を2秒以上押す



プリセットボタンと同じチャンネル数字が点滅するとメモリーされます。

- FM(FM1×6局、FM2×6局)、AM(AM1×6局、AM2×6局)の24局がメモリーできますので、上記の操作例を参考に好きな順序でプリセットボタンにメモリーしてください。

AM放送の場合でも同じ手順でメモリーできます。

### ご注意

- バッテリーの交換等でメモリー回路への電源供給が途切れるとメモリーした局や時刻の設定は、すべて取り消されます。このようなときはもう一度メモリー操作と、時刻合わせをしてください。

## シーク選局(自動選局)

「M」が表示窓に表示されていないときは、選局ボタン(▲または▼)を「ポン」と押すだけでチューナーが自動的に放送局を探してくれます。これをシーク選局(自動選局)といいます。

選局ボタン(▲または▼)を「ポン」と押すと表示窓の周波数表示が変化し、放送局が見つかったら自動停止します。

希望する放送局の周波数を正確に覚えていないときなどにお使いください。

## 道路交通情報を聞く



高速道路などの特定地域では、AM1,620kHzで道路交通情報を聞くことができます。

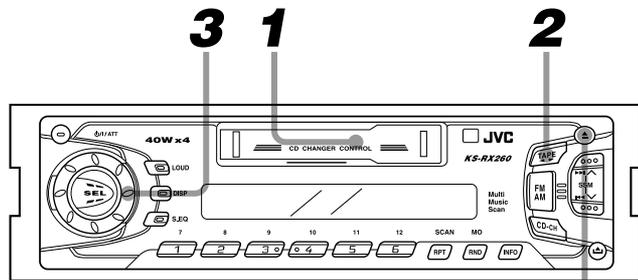
聞きたいところでINFOボタンを押すと、ソース(音源)に関係なく1,620kHzが受信できます。

INFO → 1620 PO

- INFOボタンを押して放送を聞いている状態では、放送局名を表示させることはできません。
- このモードのときはボリュームが独立しており、交通情報を聞く場合にのみ音量を上げることができます。もう一度押すと元のソース(音源)に戻り、音量も元に戻ります。
- なお、別の放送局を受信中にINFOボタンを2秒以上押すと、その放送局と音量がINFOボタンにメモリーされます。
- 受信周波数表示中にDISPボタンを押すと、時刻表示に変わります。

# テープを聞く

— 番号順に操作します。 —



▲(テープ取出し)ボタン

## キーオフリリース/キーオンプレイ機構について

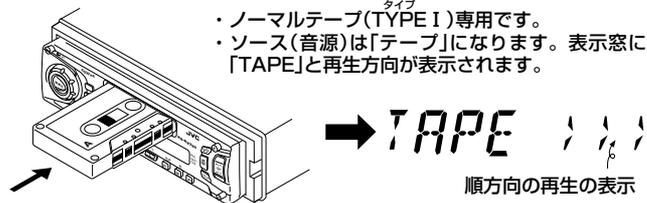
本機はテープ再生中にエンジンキーを「OFF」にすると、キーオフリリース機構により自動的にヘッドをテープから離してメカニズムを待機状態にします。  
再びエンジンキーを「ON」にすると自動的にテープ再生になります。

## 使えるカセットテープは

本機はノーマルテープ(タイプ I)専用です。  
ハイポジションテープ(TYPE II)やメタルテープ(TYPE IV)は、お勧めできません。

		再 生
ノーマルテープ	(TYPE I)	○
ハイポジションテープ	(TYPE II)	×
メタルテープ	(TYPE IV)	×

## 1 カセットを入れる→電源が入ります (上の面から自動で再生スタート)

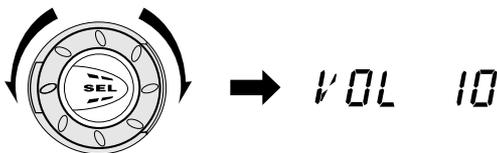


## 2 TAPE ◀▶ ボタンを押して聞きたい面に合わせる



・「ボン」と押すごとに交互に変わります。

## 3 回転ボリュームで音量を調節する



# テープを聞く(つづき)

## ミュージックスキャン(MS)の使いかた

ミュージックスキャンとは、曲と曲の間の録音されていないあき(ブランク)を検出して頭出しをする機能です。

前後9曲までの曲を飛び越して再生することができます。

**操作手順** 例：上の面の3曲を飛び越すとき

**1** テープを入れ、▶▶Iボタンを「ポン・ポン」と3回押す



MM5



・3曲進むときの操作です。

(3曲戻すときはI◀◀ボタンを3回押します)  
自動選曲の状態になります。

**2** 頭出しができるると再生が始まります

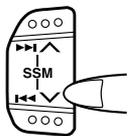
### ●頭出しの途中でテープが終わると

巻戻しで巻き始めまで戻ったときは、その面の頭から再生状態になります。早送りで巻き終わりまで行くと反転し、反転した面の巻き始めから再生状態になります。

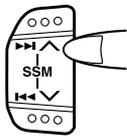
## で注意

- クラシック音楽などで音が非常に小さい部分が長く続く曲や曲と曲の間が短すぎたり、雑音が録音されているとミュージックスキャンやブランクスキップが正常に動作しないことがあります。ブランクが4秒以上あるテープを使ってください。
- ミュージックスキャンの機能は、テープを取り出すと取り消されますが、ブランクスキップの機能は残ります。

## テープを早送りしたり巻戻す



●テープを巻戻すとき◀◀ボタンを1秒以上押す。表示窓に「REW」が表示され、巻き始めまで戻るとその面の再生を始めます。



●テープを早送りするとき▶▶ボタンを1秒以上押す。表示窓に「FF」が表示され、巻き終わりまで早送りすると反転してその面の巻き始めから再生します。

- 動作の途中で再生状態にしたいときは、TAPE◀▶ボタンを「ポン」と押します。
- 早送りや巻戻し動作中は、テープ走行方向表示が早く点滅します。

## くり返して聞く リピート RPTボタンの使いかた

再生中の曲をくり返して聞きたいときRPTボタンを押します。

表示窓に「REPEAT」が表示され、くり返し再生になります。

(RPTが表示窓で点灯し続けます)

やめるときは、もう一度RPTボタンを押すかまたはテープを取り出します。

ソース(音源)を切換えたときも解除されます。



## ブランクスキップの使いかた

- ・ブランクスキップは、曲の終わりのあき(ブランク)を聞きたくないとき使います。
- 再生中に15秒以上のブランクが続くと、自動的に早送り選曲となり次の曲を見つけると再び再生を始めます。

### 1 SELボタンを2秒以上押す

### 2 ▶▶(または◀◀)ボタンを「ポン・ポン」と押し ブランク スキップ て「B.SKIP」を選ぶ

### 3 回転ボリュームで「ON」にする



- ・左方向に回すと「OFF」に戻せます。

・「ON」に設定すると、ブランクスキップが機能します。  
(お買い上げ時は「OFF」です)

### 4 SELボタンを押す

- ・元のソース(音源)表示に戻ります。

# テープを聞く(つづき)

## テープを取り出すには



▲(テープ取出し)ボタンを押します。  
テープを入れる前のソース(音源)になります。本機はエンジンキーが「OFF」のときでもテープが入っていれば、▲(テープ取出し)ボタンでテープが取り出せます。この場合、テープが出てくると自動で電源が切れます。

## 〈お知らせ〉

- テープを他の人が取り出せないようにする(盗難防止)



を押したまま



を同時に2秒以上押す。



- ・「NO EJECT」が点滅表示され、テープの取り出しができなくなります。もう一度同じ操作をすると「EJECT OK」が点滅表示され、テープの取り出しができるようになります。

## ヘッド部の清掃

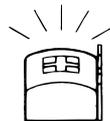
ヘッドは音をひろいだす大切な部分です。

ヘッドが汚れると

- 音質が悪い。
- 音が小さい。
- 音がとぎれる。

などの症状がでます。

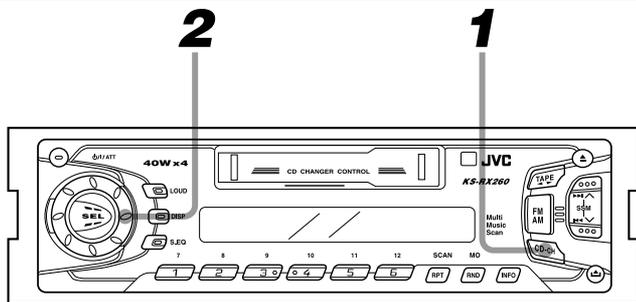
症状がでてくる前に(およそ10時間使うごと)に、別売りのオートヘッドクリーナー「CK-6型」を使ってヘッド部を清掃してください。詳しくはオートヘッドクリーナーの説明書を参照してください。



# CDチェンジャーのCDを聞く

— 番号順に操作します。 —

**全曲演奏** — CDチェンジャー内のマガジンにはあらかじめCDを入れておいてください。 —



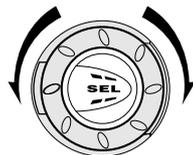
**1** CD-CHボタンでソース(音源)を「CDチェンジャー」にする→電源が入ります



・CDチェンジャーを演奏中に電源を切ったときは、電源が入ると自動的に演奏が始まります。

CD 1-01

**2** 回転ボリュームで音量を調節する



VOL 10

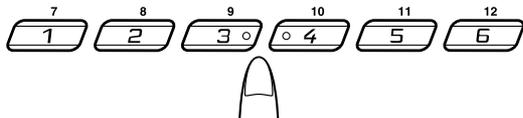
- 最後の曲の演奏が終わると、自動的に次のCDの演奏が始まります。(全CDのくり返し演奏になります)
- 演奏を途中でやめる  
FM/AMやTAPE◀▶ボタンを押して他のソース(音源)に切換ええます。
- CD-CHボタンを押しても「CDチェンジャー」に切換えができないときは…  
CD-CHボタンのモードを「LINE IN」から「CDチェンジャー」のモードに変えます。→81ページ参照

テープを聞く(つづき)・CDチェンジャーのCDを聞く

# CDチェンジャーのCDを聞く(つづき)

## CDダイレクト選択ボタンの使いかた

聞きたいCDが分かっているときは、CDダイレクト選択ボタンを使うと便利です。CDが選ばれると、選んだCDの1曲目から演奏が始まります。



聞きたいCDが入っているディスクトレイの番号に合わせてボタンを押します。(マガジンの下から順に1・2・3…となっています)

- ・ 1～6枚目を選ぶときは：ボタンに表示されている番号のボタンを「ボン」と押します。

例：2枚目のとき



- ・ 7～12枚目を選ぶときは：ボタンの上のパネル面に表示されている番号のすぐ下のボタンを1秒以上押します。

例：10枚目のとき



1秒以上押す。

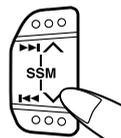
## スキップ演奏(曲の頭出し)

### ●演奏中に次の曲を聞くには



- ・ **▶▶** ボタンを「ボン」と1回押すごとに次の曲次の曲へと移り、頭から演奏が始まります。

### ●演奏中に前の曲を聞くには

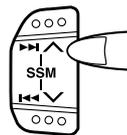


- ・ **◀◀** ボタンを「ボン」と1回押すと今演奏中の曲の頭に戻ります。もう1回押すと前の曲の頭に戻り、演奏が始まります。

## サーチ演奏(早送り・早戻し)

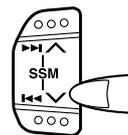
- ・ 演奏中の曲の途中の位置を探すときは、早送り・早戻しの機能を使います。

### ●早送り



**▶▶** ボタンを押し続ける。

### ●早戻し



**◀◀** ボタンを押し続ける。

サーチ速度は始めゆっくり、押し続けると速くなります。このとき演奏音は通常の1/4程度の大きさで聞こえます。指を離すとふつうの演奏に戻ります。

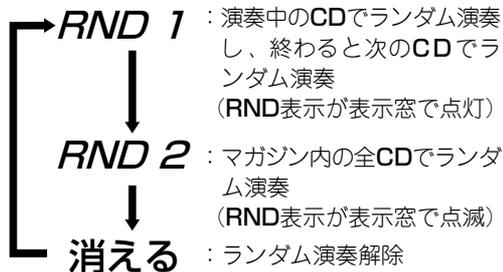
## ランダム演奏

ランダム

- ・RNDボタンを使うとCDの収録順に関係なく、ランダム(無作為)な順番で聞くことができます。表示窓に「RND1」または「RND2」が表示されます。



- ・押すごとに次のように動作します。

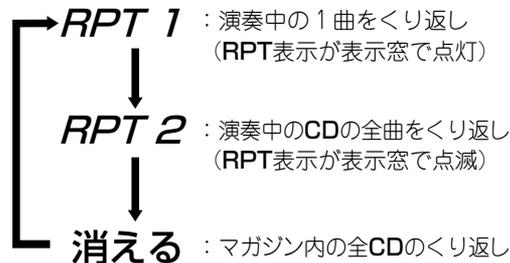


## リピート演奏(くり返し演奏)

- ・RPTボタンを使うと演奏中の曲をくり返して聞くことができます。表示窓に「RPT1」または「RPT2」が表示されます。

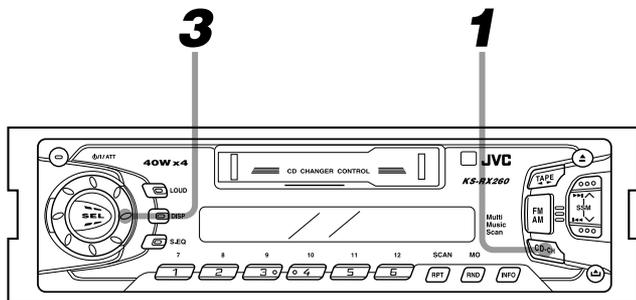


- ・押すごとに次のように動作します。



# 他の機器の音を聞く

— 番号順に操作します。 —



- あらかじめCD-CHボタンを「LINE IN」のモードに切換えておきます。→ 31 ページ参照

## 1 CD-CHボタンを押す→電源が入ります



→ LINE IN

## 2 接続した機器を演奏状態にする

- ・ 接続した機器に音量調節があるときは、テープなどの再生音と同じ程度に聞こえるように調節してください。

## 3 回転ボリュームで音量を調節する



### 〈お知らせ〉

- 他の機器(RCAの2チャンネルの出力端子付)は、変換コード:KS-U57(別売り)を使ってCDチェンジャー端子に接続することができます。すでにCDチェンジャーが接続されている場合は、ご利用になれません。

# レベルメーターの表示切換え

レベルメーターの表示を変えるには

**1** SELボタンを2秒以上押す

**2** ▶▶I(またはI◀◀)ボタンを「ポン・ポン」と押して「LEVEL」を選ぶ

**3** 回転ボリュームを右方向に回して表示を選ぶ



**4** SELボタンを押す

・元のソース(音源)表示に戻ります。

CD-CHボタンのモードを変更する

CDチェンジャー端子に他のカーAV機器を接続したときは、CD-CHボタンのモードを「LINE IN」に変えます。

**1** ソース(音源)を「ラジオ」にする

**2** SELボタンを2秒以上押す

**3** ▶▶I(またはI◀◀)ボタンを「ポン・ポン」と押して「EXT IN」を選ぶ

**4** 回転ボリュームを右方向に回して「LINE IN」にする



CHANGER : CDチェンジャーをつないだとき  
(お買い上げ時の状態)

LINE IN : 他のカーAV機器をつないだとき

・左方向に回すと「CHANGER」に戻せます。

**5** SELボタンを押す

・元のソース(音源)表示…ラジオ…に戻ります。

## お知らせ

- ・ソース(音源)が「CDチェンジャー」のときは、手順**3**のとき「EXT IN」にはなりません。

# コントロールパネルの着脱

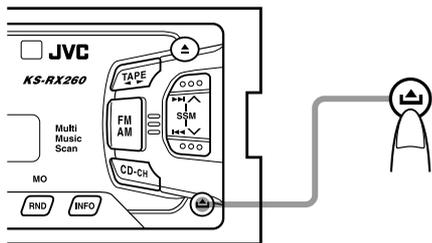
## コントロールパネルを外すには

- 1** 電源(電源)/ATTボタンを1秒以上押して電源を切る

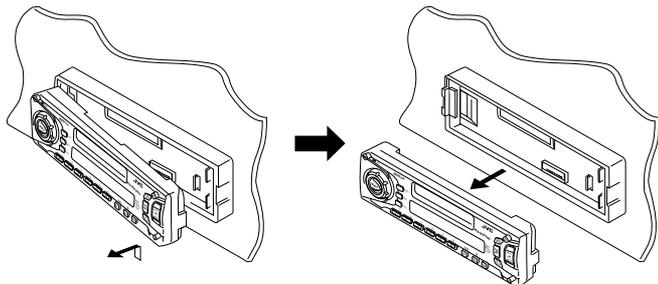


1秒以上押す

- 2** コントロールパネル取り出しボタン(▲)を押す

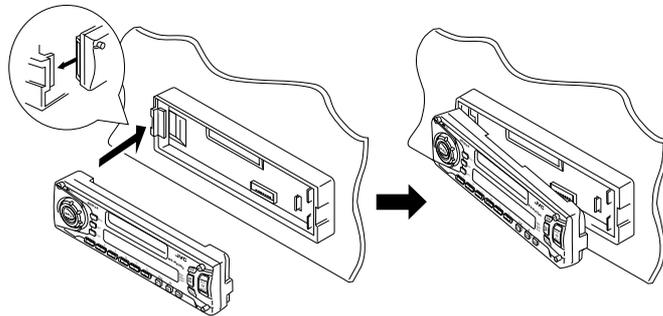


- 3** 前に押し出されたコントロールパネルを外す

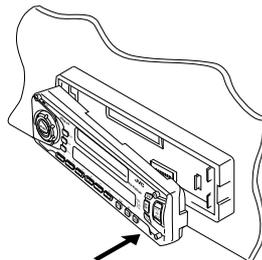


## 外したコントロールパネルを元に戻すには

- 1** コントロールパネルの左側を本体に合わせて入れる



- 2** コントロールパネルの右側を「カチッ」と音がするまで押す



# 故障かな？と思う前に

修理を依頼される前に、まず次の項目をお確かめください。

それでも直らないときは故障によることが考えられますので、お買い上げの販売店、または最寄りのサービス窓口までご連絡ください。

症 状	原 因	処 置
CD-CHボタンを押してもCDチェンジャーの操作ができない。	・ CDチェンジャーと正しく接続されていない。	・ 正しく接続し直し、CDチェンジャーのリセットボタンを押す。
▲ボタンを押してもテープの取り出しができない。	・ テープが盗難防止状態になっている。 → 28 ページ参照	・ TAPE◀▶ボタンを押したまま▲ボタンを同時に2秒以上押す。→ EJECT OKが表示されたらもう一度▲ボタンを押す。
音が小さい、音質が良くない。 音がとぎれる。(テープ)	・ ヘッド部が汚れている。	・ ヘッドクリーナーで定期的に清掃する。
ミュージックスキャン(自動選曲)がうまくできない。(テープ)	・ 曲と曲の間のブランクが短すぎる(3秒以下)か、録音レベルの低いテープを使っている。	・ カセットテープを交換する。
AM放送がうまく受信できない。	・ オートアンテナのコントロール電流が250mAを超えている。  ・ 車両のオートアンテナコントロール端子(またはアンテナアンプ電源端子)に[オートアンテナコード]が接続されていない。	・ [リモート出力]コードをオートアンテナに接続するように変更する。  ・ [オートアンテナ]コードを接続する。
どのボタンを押しても正しく動作しない。	・ 雑音などの影響で内蔵のマイコンが誤動作しているため。	・ 電源/ATTボタンとSELボタンを同時に2秒以上押してリセットする。 (時計や放送局などのメモリーが取り消され、初期状態に戻ります)

# 保証書とアフターサービス

## ●保証書の記載内容ご確認と保存について

この製品には、保証書が添付されております。

保証書はお買上げの販売店でお渡ししますので、所定事項の記入、および記載内容をご確認いただき、大切に保存してください。

## ●保証期間について

保証期間は、お買上げの日より1年間です。保証書の記載内容により、お買上げの販売店が修理致します。

その他詳細は保証書をご覧ください。

## ●保証期間経過後の修理について

保証期間経過後の修理については、お買上げの販売店にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、お客様のご要望により、有料にて修理させていただきます。

## ●補修用性能部品の保有期間について

当社はこのカーステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打切り後最低6年保有しています。

## ●アフターサービスについてのお問い合わせ先

ご転居、ご贈答、その他アフターサービスについてご不明の点は、お買上げの販売店、または添付の「サービス窓口案内」をご覧ください。最寄りのサービス窓口にご相談ください。

## 修理を依頼されるときは

1. まずこの取扱説明書をよくお読みのうえ、再度お調べください。
2. それでも正しく動作しないときは、お買上げの販売店に次のことをお知らせください。

・ JVC カセットレシーバー：KS-RX260

・ お名前とおところ

・ 電話番号

・ 故障の状態(詳しく)：例 テープの再生音が出ない

## 別売りアクセサリー

- ・ オートヘッドクリーナー：CK-6
- ・ RCA PIN コード：CN-505E(長さ0.5m)  
CN-510E(長さ1m)  
CN-520E(長さ2m)
- ・ 変換コード：KS-U57
- ・ リモコン：RM-RK41

# 主な仕様

●本機の仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

## オーディオアンプ部

- 最大出力：フロント/リア 40W+40W(4Ω、1kHz)
- 適合インピーダンス：4Ω(4Ω～8Ωで使用可能)
- 入力端子：DINジャック(8ピン)×1、CDチェンジャー  
(またはカーAV機器)接続用1.5V/20kΩ
- 出力端子：RCA端子(1系統)、2.0V/1kΩ  
スピーカーコード(2系統、ギボシ型)

## チューナー部

- アンテナ端子：外部FM/AM兼用アンテナコネクター  
(JASOプラグ仕様)
- FMチューナー部
  - 受信周波数：76.0MHz～90.0MHz
  - 実用感度：14.3dBf(1.43μV/75Ω)
- AMチューナー部
  - 受信周波数：522kHz～1,629kHz
  - 実用感度：27dBμ(22.4μV)

## カセットプレーヤー部

- トラック方式：コンパクトカセット・ステレオ
- ワウ・フラッター：0.1% W・RMS
- 早巻き時間：約100秒(C-60)
- 周波数特性(再生)：ノーマルテープ 30Hz～16kHz
- SN比(ノーマルテープ)：54dB

## 電源部・その他

- 電源電圧：DC14.4V(11V～16Vで使用可能)  
マイナスアース車用
- 時刻表示：12時間表示法
- 外形寸法：幅178mm×高さ50mm×奥行170mm
- 質量：約1.3kg(付属品含まず)

## 付属品

- ・接続コード(16ピンコネクター)…………… 1
- ・ネジ(M5×6mm)…………… 4
- ・皿ネジ(M5×6mm)…………… 4

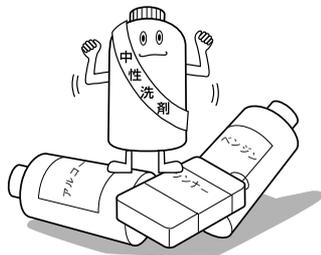
# お手入れ

## 本体の清掃

パネル面が汚れたら柔らかい布で**からぶき**してください。  
汚れがひどいときは、水または中性洗剤を少し布につけてふき、あとは**からぶき**してください。

### ご注意

- シンナーやベンジン、アルコールなどの化学薬品でふいたり、殺虫剤をかけないでください。変色したり表面の仕上げをいためることがあります。



## ご相談や修理は

ビクター製品についてのご相談や修理のご依頼は、  
お買い上げの販売店にご相談ください。

転居されたり、贈答品などでお困りの場合は、下記のご相談窓口にご相談ください。

修理などのアフターサービスに関するご相談

お買い物相談や製品についての全般的なご相談  
カーオーディオお客様ご相談センター

別紙の  
「JVCカーオーディオ製品  
サービス窓口案内」を  
ご覧ください。

☎ (027)252-5145  
FAX (027)254-8927 (ダイヤルイン)  
受付時間 10:00~18:00  
(土、日、祝日、当社休日を除く)  
〒371-8543 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1

ビクターホームページ <http://www.jvc-victor.co.jp/>

# JVC

MANUFACTURED BY VICTOR COMPANY OF JAPAN, LIMITED

## 日本ビクター株式会社

パーソナル&モバイルネットワークビジネスユニット

〒371-8543 群馬県前橋市大渡町一丁目10番地の1

☎ ダイヤルイン (027)254-8926